

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

事業課題名	南京大学中国語研修
代表者名	平田 昌司
事業概要 (600 字程度)	<p>2016 年 8 月 22 日から 9 月 14 日まで、南京大学海外教育学院において中国語研修コースに参加する事業。中級レベル以上の学部学生を対象として実施する四週間の中国語特訓プログラムである。奈良女子大学など他大学から派遣された学生と合同で 1 クラス 10 名程度の少人数クラスを編成し、午前中に「総合（文法説明）」と「口語（会話練習）」に分かれた語学の授業を受けるだけでなく、午後には切り絵、太極拳の講習など、中国の伝統文化に触れる機会が設けられた。また、週末を利用して、南京大学日本語学科の学生との交流活動、中山陵や南京博物館の見学なども行われた。プログラムの終了後には、参加者に語学研修の成績と修了証が交付された。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本年度の参加者は計 3 名（文学部 3 回生 2 名、同 2 回生 1 名）であり、いずれも一定程度の中国語運用能力を具えた学生であった。事前準備としては、6 月 9 日に南京大学海外教育学院ウェブサイト上でオンライン登録をする際に担当教員（木津祐子・緑川英樹）による個別面談がなされたほか、出発前の 7 月 14 日にオリエンテーションを実施し、中国語会話、滞在中の注意事項、南京の歴史などについて理解を深めた。</p> <p>南京大学海外教育学院における研修プログラムの主たる内容は、平日午前中に開講される中国語の授業であり、「総合課」は楊寄洲主編『漢語教程』第二冊上（北京語言大学出版社、2006 年）、「口語課」は王励主編『短平快 漢語——初級口語（2）』（北京大学出版社、2006 年）を教材としておこなわれた。すでに二年以上の学習歴を有する参加者にとって、教科書の内容そのものは比較的易しいものであったが、中国語のみのダイレクト・メソッドで展開される教師や他の学生とのやりとりは、当初かなり困難を覚えていたようである。しかし、四週間の研修期間を経て、中国語を用いたコミュニケーションに徐々に自信を持ち、みずから積極的に発言、討論できるようになった。</p> <p>帰国後の 10 月 12 日には、文学部新館 7 階の緑川研究室において研修報告会を開催し、参加者と担当教員が集まって本プログラムに関する懇談、総括をおこなった。いずれの参加者も、プログラムの内容とその意義を極めて肯定的に捉えており、中国語能力のさらなる向上とともに、みずからの研究活動や大学院進学など、今後のキャリア形成にこの経験を生かしていきたいと抱負を述べた。</p>

南京大学 授業風景

